

- The Emergence of Kuroda Estate as a
Tôdaiji Property—
as Insights for the Study of Ôbe Estate

莊園の始まり—平安時代における東
大寺領黒田荘、
大部荘研究のための手がかり

-

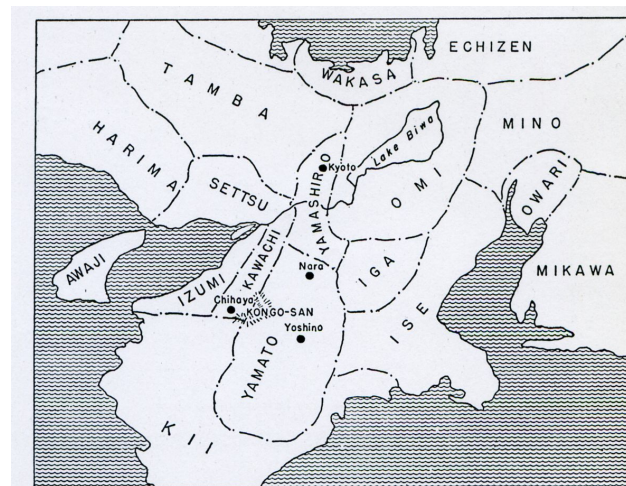
- 平安中期の荘園と荘園領主としての東大寺の初期の歴史を説明する上で、黒田荘をケーススタディの一つになる
- 目的： 荘園に関する歴史的背景や平安後期・鎌倉初期の大部荘の発展に対する比較的見解を示したい

Kuroda no shô kenkyû

-

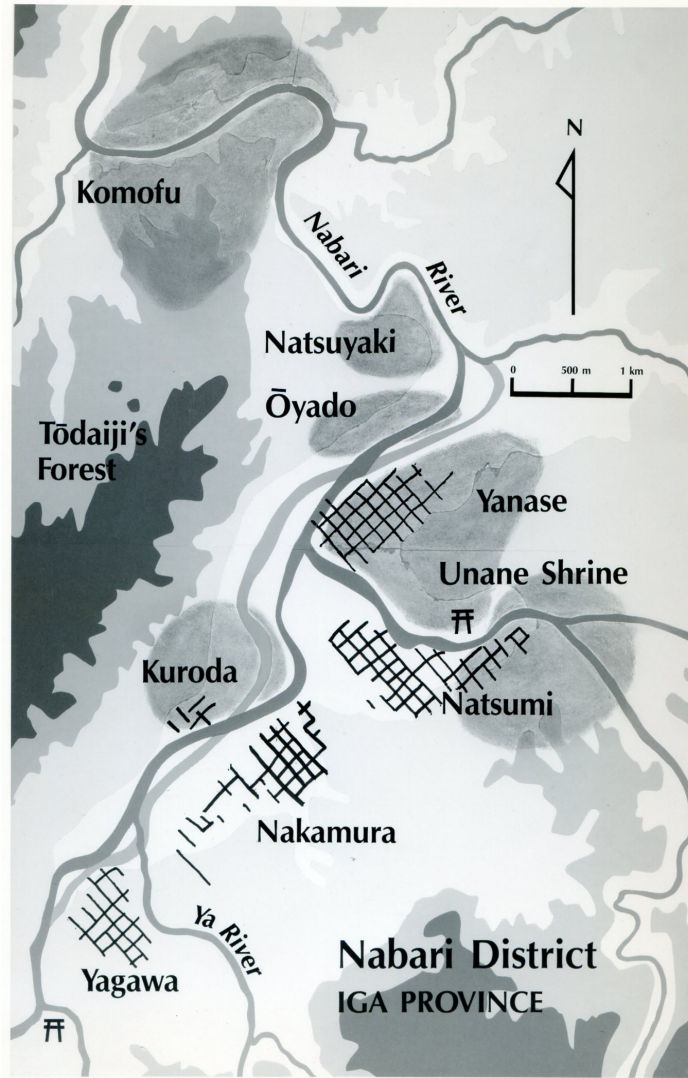


かつての黒田荘付近(三重県名張市) 撮影 熊谷武二

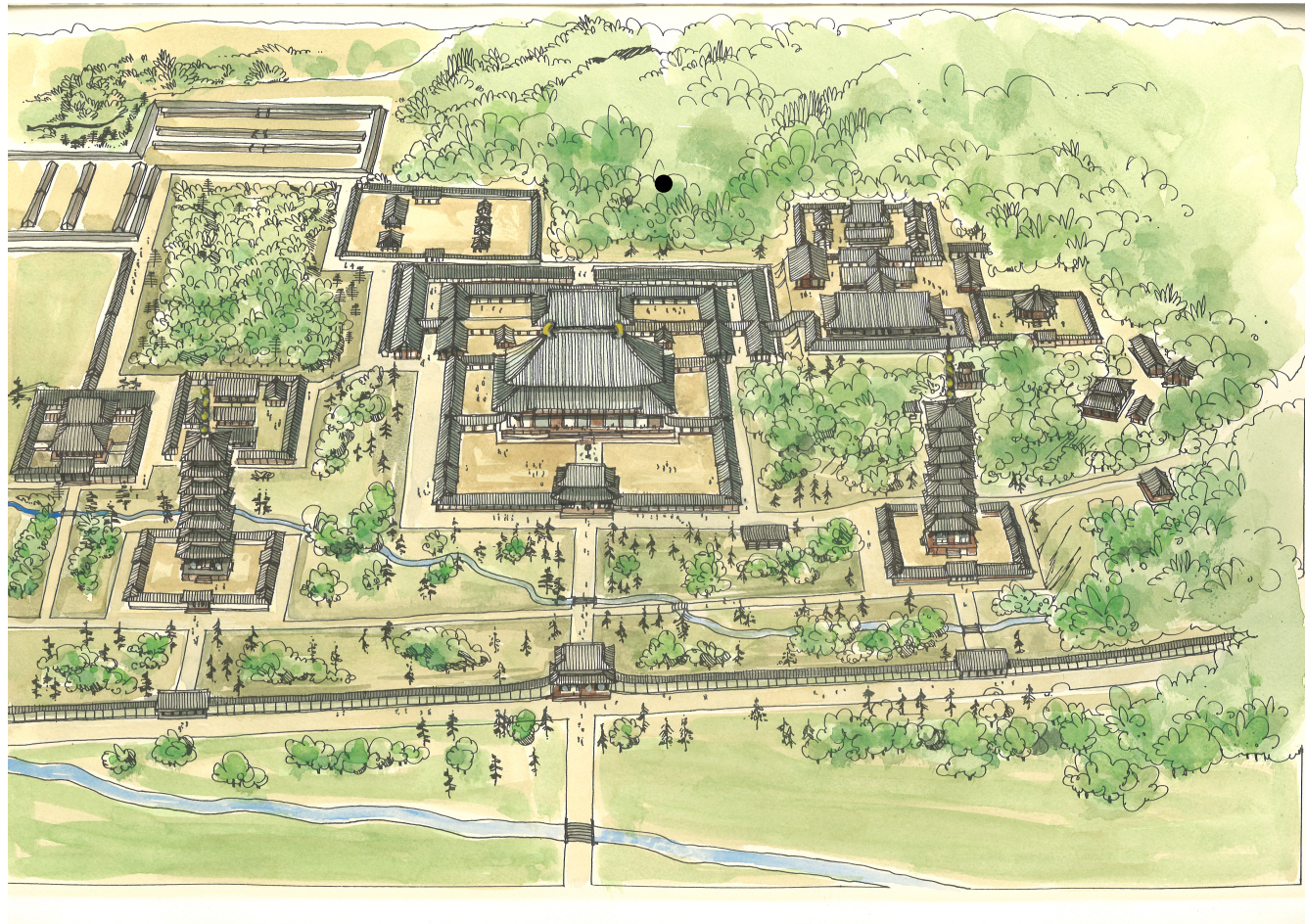


The five home provinces and neighbouring provinces, about A.D. 900

- The early history of Nabari District in Iga



- 名張の歴史
- 伊賀の国の郡の一つ
- 旧東海道
- 名張郡、名張郷、夏見村
- 名張川の近いの条里制
- 郡司の責任一字奈根神社の郡衙か(延喜式内社)、夏見廃寺 口分田
- 板蠅杣、東大寺僧実中の記録、毛原寺、伊賀の国の東大寺の封戸＝百戸～900C.E.

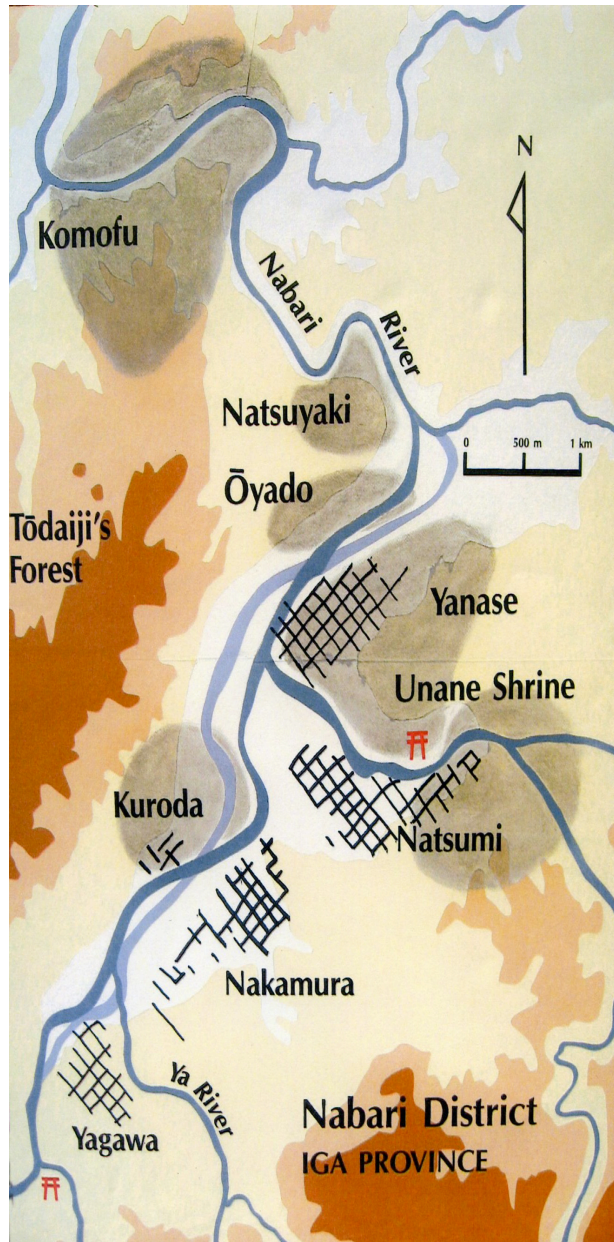


Tōdaiji of Nara

From River Plain to Mountain Valleys: new venues for cultivation, 9-10th c. 川から山まで 九、十世紀

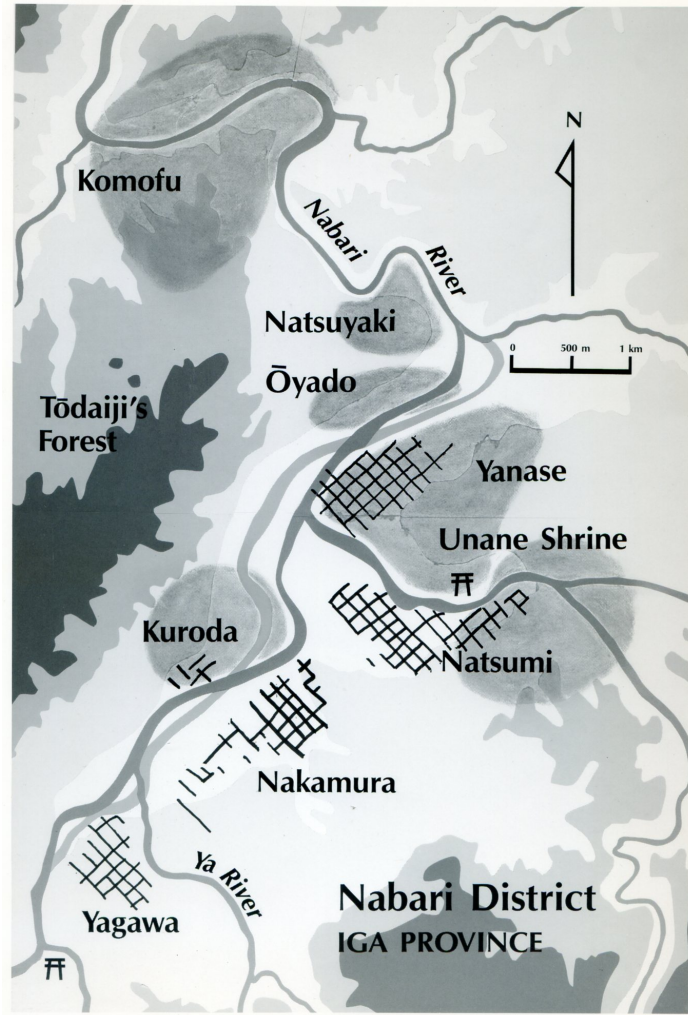
Yamashiro 896 04/02 New settlements in mountain valleys thrive, away from *jôrisei* of the river bank—

- temple rent collectors want to collect rent within *soma*, court says no
- 谷田を耕す百姓が成功して、
- そまの領収であった寺院が家賃をとりたかった 『類従三代格』
- The district chieftain of Sagara transmitted the following report from cultivators: “Adjacent to the Izumi River are mountains where such temples as Tōdaiji, Gangōji, Daianji, and Kōfukuji have traditionally had trees cut. Each mountain covers from 1500 to 3000 acres. The area extends on the east to the boundary with Iga province and on the south to the boundary with Yamato province. At present, cultivators in the townships of Ogawara, Ariichi, and Kasagi possess many officially distributed rice paddies and residences in this mountainous area. They moved into the mountains along the river, developed paddy fields, and settled here and there, living together in groups. Their offspring have been living in this area, inheriting the houses and paddy fields generation after generation for more than a century. Traditionally the various temples have not assessed rent on this mountainous land. Recently, however (885-89), Gangōji began collecting rent and Kōfukuji followed suit. We the cultivators ask for an exemption from such rents.” 896 04/02 RJSK



- 十世紀、名張川の山際部分に荘園または牧をたてて、権力を伸ばそうとする他の権門勢家が東大寺と競合する時期
- 東大寺の高僧は、今回伊賀国に新しく所領を立てる動き
- この時期の東大寺が、僧・建物・宗教儀礼を支える資源を必要としていたことを考えると、彼等が伊賀国を資源調達のための身近な地としてとらえた。
- 964 夏見郷中薦生(コモフ)御牧の立巻:親開田、荒廃田、牧、野、栗林。
 こういう所領には、宅や名のため、臨時雑役を免除する
- 966 板蠅杣の四至が設定 -> 杣はもって荘園のようなものになった。Ōyado, Natsuyaki をふくめて田、畠、公田、私領田もあった (wet fields, dry fields, public lands and private holdings of various proprietors (*ryōshu*) all included
- = 将来の問題いろいろ、an administrative nightmare for present and future
- 999 東大寺別当: 薦生牧は板蠅杣の四至内と主張する

From Mountain Valley to River Bank, 11th c. 山田から川原まで、十一世紀



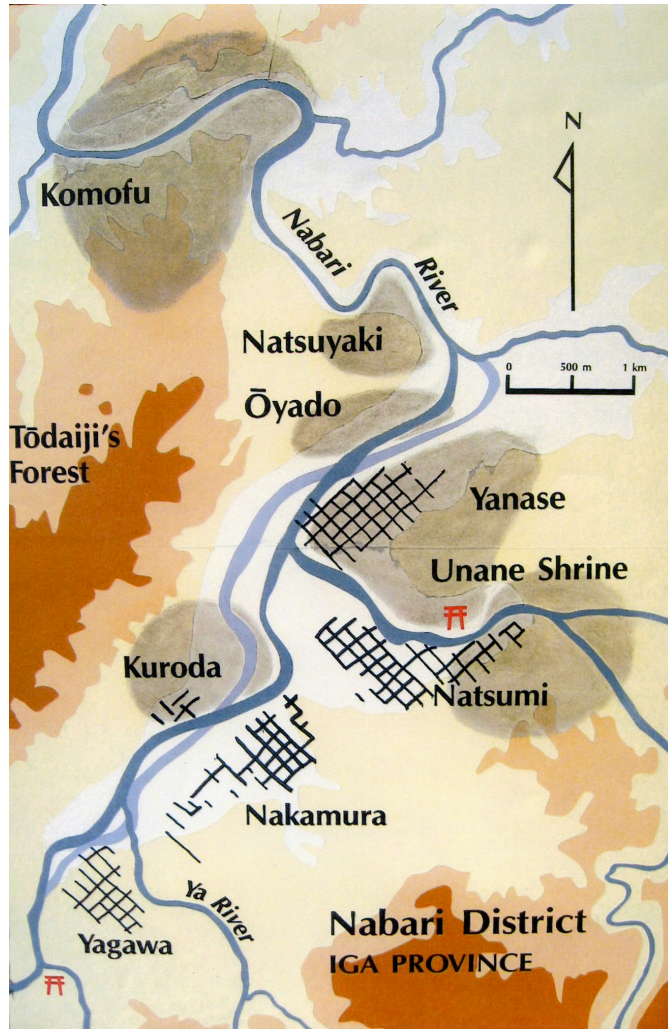
- 伊賀の国衙は川の東岸にある条里制に基づいて整備された土地を再開発しようとしていた。かれらは九世紀後期以降、力田の輩(田堵)を募り、墾田開発を進めて、その後、年貢や公事を納めるようにした。
- 川の西岸の農民が東岸にどんどん新しい地を開発・耕作していったが、問題はどのくらい国が税をとるべきか？東大寺の杣人は、国にとって、どんな身分があったのか？
- Fujiwara Kiyokado (『キヨカド、今昔物語集』), Fujiwara Sanetō [サネトウ]の譲り状 = 開発領主 1048 の失敗
- 高層も名張の東岸に私領を開発した

1053-→名張には国と東大寺の

杣人のあいだ、戦争

- その戦争と暴力のなかから、黒田荘がうまれてきた。
- けれども、そのあと、つづいて、戦争があった。ときどき寺僧と荘民（杣人、御荘の工夫）が国衙の人々と戦った
- -> 150 acres confiscated from Nabari clients of Tôdaiji in Yanase, Nakamura, Yagawa 16 homes burned
-
- 国の文句：伊賀に領主が多い、税なし
- 東大寺のような権門ヨリウドはもとの荘園の境をこえて、「新荘」をたてている
- 藤原頼通の政権が：どうしましょう？
- そのときの東大寺の別当(覚源)が高層で、親王でもあった：「黒田荘」の検田を命令した、「黒田荘屋」が文献にでる
- 国衙が太政官から許しをえて、境ぼしを捨てて、税をとるようにできる

Kuroda no shô thrives, despite violence



- それにしても、1121に100 杣人がYanase, Yagawa, Nakamura, Natsumi に住んでいた。

- どういうふうに十一世紀の名張のむらには絆をつくったか？
- 大きな名 田堵の活動 下司名
- 名はなんなんだったのか？
- 荘園領主として耕作者を保護・支持する東大寺の立場は名張の耕作者間に連帯感を育てる上で重要であったと推測している。
- 例えば、東大寺への住民の解からも明らかのように、黒田の耕作者は寺の「杣人」であることを誇り、寺は自分たちを保護してくれる存在
- また十一世紀半ばに初めて現れる黒田村の荘屋は、地域会合に大切な役割を担っていた。

Twelfth-century Kuroda no shô

- 十二世紀に黒田荘は政治的にも経済的にも大きな展開期を迎えた。
- 院の近臣が国司の地位を占めるようになると、黒田荘においても川東岸の全住民を登録し、耕地の位置を地図上に記載しようとする国衙官人の動きが見られてくる。
- 東大寺はそれに対抗する戦略に出た。
- その主たる理由は、京都の院庁における審議(そこで国衙役人は東大寺が主張している名張郡の土地や耕作者に対する権利を否定した)の記録準備をする必要に迫られたからである。
- 東大寺の僧にとっては寺の生死がかかるともいえる時期だった

- 名張においても別の変化が起こっていた。
- 東大寺が耕作者を保護・支持してくれる存在だった以前の時期に比べ、荘民の一部は寺の検注に反抗的態度を示すようになり、荘園をより直接支配しようとする動きを見せるようになってきた。
- しかし彼等に残された選択肢は、
- 寺僧の支配権力を認めるか、
- または名張郡に勢力を増しつつある郡司と地方の長、丈部近国の武装勢力に屈するか。その丈部は十二世紀に国衙と荘園間の争いの中心的人物であった。

- 多くの名張の住民が寺の支配を認めた。
- しかし、東大寺が黒田荘を法的に獲得してゆくその過程で東大寺と名張住民との関係が変化していった
- 荘民は土地や住宅を保護してくれる寺の権力により強く依存するようになり、過去の寺と住民等が相互に利害を分かち合う関係から、寺の一方的支配へ、領主的な態度に変わっていった。